



長洲町長 中逸 博光

新年明けましておめでとうございます。
います。

令和2年の輝かしい幕開けを迎えるにあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、これまで築いてまいりました「定住・福祉・産業・教育」各分野の事業が、確実に形となり、まさにしっかりと根を張った「まちづくりの太木」が出来上がったと感じる一年でありました。

定住分野におきましては、PFI事業による地域優良賃貸住宅「レインボーみやの」全戸7棟250戸が完成し、多くの子育て・新婚世帯が入居され、地域に活気が戻ってまいりました。また、5月に開通しました一般国道389号「新山・磯町区間」により、車の流れが大きく変わり、長洲荒尾間のアクセスが向上し、町中を通る大型車両が減りました事で、児童・生徒の通学時の安全性が向上しました。今後は、これからの長洲町の発展に大きく寄与する都市計画道路「赤田・上沖洲線」の整備や、出町の町営住宅跡地などの宅地整備、有明海沿岸道路の早期整備実現への要望活動をさらに進めてまいりたいと考えております。

福祉分野におきましては、九州厚生局主催の「九州・沖縄地域包括ケア推進フォーラム」にて、長洲町が「地域包括ケア介護予防・日常生活支援総合事業の部」の「部門賞」をいただくなど、各行政区の介護予防拠点施設等を活用した各種活動が実を結ぶ形とな

りました。これも町民の皆様が、自ら積極的に健康づくりに取り組んでいただいております賜物であり、感謝申し上げますとともに、本町としましても、これらの活動をさらに強化していきますことで、福祉の増進を図ってまいりたいと考えております。

産業分野におきましては、例年以上に多くのイベントを開催することができ、他自治体のイベントにも積極的に参加しましたことでも、「金魚のまち・長洲町」をより多くの皆様にPRすることができました。また、農業・漁業におきましては、企業などが参入し、大規模トマトハウス建設や海苔乾燥施設2号棟を完成されるなど、長洲町の産業に新たな活力が生まれた年でもありました。本町としましては、今後、農業の持続的な発展の基礎となる腹赤地区圃場整備事業を更に進めてまいりますとともに、20の行政・民間企業からなる「水産振興及び干潟再生協議会」などの活動により水産業の振興を図り、地域経済の活性化へとつなげてまいりたいと考えており

ます。

教育分野におきましては、通学の利便性を考慮し、中学校の自転車通学が始まりましたが、それに伴い、ヘルメットの配布および駐輪場を設置し、また、町内に76台設置しております防犯カメラも、設置以降、子どもたちの見守りの一翼を担っているところであり、安全で快適な学習環境づくりを進めることができました。

本年は「太木」となりました長洲町のまちづくりが、さらに枝葉を広げ、「住みたい・住んでよかった」と思えるような、皆様の魅了することができると事業を展開してまいりたいと考えております。皆様の変わらぬご支援とご協力をよろしくお願い申し上げますとともに、令和2年が皆様にとりまして素晴らしい一年となりますことを心よりお祈り申しあげ、年頭のご挨拶といたします。

